

ホーム名：グループホーム高石					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝 スタッフが理念を唱和し気持ちを一つにして 生活のパートナーとしてケアに取り組んでいる。	職員は毎日の朝礼時に理念の唱和を実践している。唱和をする事により入居者への支援のあり方を再認識し、今日一日の仕事への新たな意欲へと繋げている。事業所と職員の福祉サービスに対する基本姿勢が窺えた。	理念はリビングにつながる廊下に掲げられているが、初めての訪問者にも自然に目につくような位置にされるのが望ましいと思われ、一考されて頂きたい。また、理念の文字はもう少し大きくされてはどうか。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	利用者様の馴染みのある場所にお連れしたり、自治会の方のお世話により地域の盆踊りの参加などして 地域とのコミュニケーションを図る機会を持つように心がけている。	事業所法人として自治会に加入している。管理者は本ホームが地域密着型として地元の一員である事に重点を置いている。地元盆踊りへの参加や、ボランティアの華道、お茶などの受け入れもその一環である。また入居者の散歩時には近隣の人との触れ合いもあり互いに挨拶し合っている。	管理者の地域密着型ホームであるとする姿勢は評価できるものである。さらに一歩進んだ積極性をもたれ、働き掛けもされて地元からの協力と理解を深めて頂きたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域発信の行事（商工フェスティバルなど）に積極的に参加させて頂いたりして、地域の中に入り込むことで発信をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの報告の後 地域の方・利用者の家族様との意見交換を行い 其れをもとに 職員が話し合いサービスを行っている。	運営推進会議は2ヶ月に一度開かれている。参加者は家族代表、高石校区委員長、地域包括支援センター等である。管理者は日常の支援活動を説明し参加者の意見を求めている。また、情報交換としての場でもあり支援のスキルアップにもなっている。	推進会議では日常的な支援の話し合いが望ましい。参加メンバーに民生委員などにも加わってもらい、より多くの提案を求めて勘案し会議の充実化を図られて欲しい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	月に1回 市役所に利用者状況の報告をしている。 管理者が地域密着型サービス連絡会にて 地域への情報を得て発信している。	管理者は入居者一人ひとりの生活状況と支援の程度について市に報告し助言を求めている。高齢者の徘徊を捜索する包括支援センターのSOS連絡会にも参加して、市町村への係わりを深めている。	市町村への関係維持は地域密着型としては必須の条件である。これからも、市との連携に留意され今後も一層の深い係わりを持たれるよう努力されたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に行き 研修内容をフィードバックし 職員間で内容の理解に努めケアに取り組んでいる。	身体拘束しないのが基本方針であり、家族にも説明している。高石病院の身体拘束防止の研修に参加している。入居者の介助や支援が難しい時は、入居者の気持ちが落ち着くのを待ってから介助支援をしている。入居者の安全の為にエレベーター起動は職員が行うようにしている。	事業所は入居者の安全を第一に考えながら身体拘束のない福祉サービスに徹している。この基本方針は理念に副ったものであり本ホームでは毎日実践されている。これからもこの基本方針から外れる事のない支援と介助をお願いしたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加し 研修内容を職員間で話し合い 虐待を見過ごさないように努めている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修に参加して、それをほむむにてフィードバックして 成年後見人制度の活用をできるように支援している。</p>			
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所前に重要事項を用いて理解して頂けるように説明をしホームのことを理解・納得していただいた上で契約をして頂く。退去時にも 管理者・職員を交えて話をし理解・納得して頂けるよう努めている。</p>			
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>2ヶ月に一度の運営推進会議の中で利用者様や家族様地域の方の意見や要望を聞き、運営に反映すように努めている。</p>	<p>家族の意見や要望は訪問時に聞く場合が多い。また運営推進会議などの時の発言も考慮されホーム運営の参考にされる。現在のところ意見箱による投書はない。当ホームの家族訪問はかなり頻繁であり、職員達と話しやすい環境であると見受けられた。</p>	<p>ホームの環境の中に理念が活かされていると思われた。訪問時のさり気ない会話からホームの運営に係わる事を見出し、反映に繋げていこうとしている。この方針を恒久的に堅持されるように願いたい。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>管理者が法人の定例会議などに参加し ホームの申し送りや職員会議などの内容を報告し 職員の意見を反映でき様に努めている。</p>	<p>2ヵ月毎に開催される職員会議で職員の意見や要望が発議され、検討されている。運営に関する事案は他の案と共に勘案し、より開かれたホームである為の努力が窺える。</p>	<p>平素から入居者の支援にあたっている職員の意見ほど必要性の高いものはない。事業所はそれをよく認識されているが、さらにより一層、職員が積極的に運営に係わっていけるような環境づくりをされて頂きたい。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>面談を行い 職員の状況を把握し 向上心をもって働けるようなやりがいのある職場にするように 努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>個々に応じて職員一人一人の力量を把握し、勉強会を行い 向上心を持って働けるように努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>SOSネットワークや、地域密着連絡会に管理者が参加。他事業者との 交流を図っている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人との会話に耳を傾けて、密にコミュニケーションを図り安心を確保できる関係づくりに努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>面談時に家族様の不安・疑問・要望を会話の中からくみ取り 家族・本人が安心することができよう信頼関係を築いている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人の既往歴と話し合いをしそこから 本人と家族様が必要とすることを見極め それを含めたサービス対応に努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人様が自分でできることは自分でして頂けるように声掛け促し 共に暮らしていける関係を築けるよう努めている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族様とは情報を共有できるように 来所された折にはケアチェック表を見て頂き説明しまた意見や要望・助言などもいただき共に支え合える関係を築いている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>出来る限り本人様の馴染みの関係が途切れない様に 行きつけの美容院やかかりつけの病院などに出かけ関係性が途切れないよう努めている。</p>	<p>職員は入居者一人ひとりの馴染みの場所や人などの話しを充分に聞かれ、出来る限り入居者の希望を叶えられるようにしている。釣りの好きな人にも、美容院が馴染みの人も、それぞれ可能な限り実現への努力がなされている。</p>	<p>心の繋がりを大切にする事によってホームでの生活も豊かなものへとなる。入居者の希望を聞き出すように話しかけられ、潤いのある余生が送られるような支援をお願いしたい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>介護度・認知度を考慮しつつ席を決めたり レクリエーションによりかかわりを持てるように支援している。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>行事のある時など連絡を行い参加して頂いている。年に一回の法事に行かせていただき故人との思い出を共有している。また、ボランティアとして華道クラブを開催して頂いている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の会話の中で 利用者様の希望・思いをくみ取り旅行などに行ったり 家族カンファレンスを行い本人の希望に添える様取り組んでいる。</p>	<p>職員は入居者の思いが何であるかを把握するために会話や表情や振る舞いなどから観察している。一人ひとりが違った反応をする為、職員は家族の意見もよく聞き出来る限り正確に判断しようとしている。</p>	<p>入居者の要望を満たしてあげようと本ホームの姿勢は十分に賛同に値するものである。こういった入居者の為の支援はこれからも継続されていくようお願いしたい。</p>
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>生活歴・暮らし方・生活環境を家族様との会話や交流の中でも把握できるように努めている。</p>	/	/
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>個々の生活リズムを崩さないように努め ケアチェック表で職員間で情報を共有しその日の表情・行動などいろんな状況にも目を配り 医療との連携も図っている</p>	/	/
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>月1回の一人一人のアセスメントを行い、医師・ナース・歯科の方々とも連携を図り介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画作成にあつたては、職員や家族だけではなく医療関係者の意見もよく取り込まれ、入居者の健全なホーム生活に結びついた内容になっている。長期は1年、短期は半年とあるが、状況によってはその日の現状に即した介護が行われている。</p>	<p>関係者多数の意見が反映されて、総合的に優れたものとなっている。また、練り直し可能な対応は真に入居者の為の福祉サービスといえる。これからも、この態勢を維持されるよう望みたい。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々個別にケアチェック表を記入し 特別なことがあれば 特記事項に記入し情報を休できるようにしている。又申し送りノートでも情報を共有できるように取り組んでいる。</p>	/	/
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族の状況により その時々でホームの内外問わず 個別に支援に取り組んでいる。</p>	/	/
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>ボランティアの方や地域の方に協力して頂き 出来るだけ今までしてこられたことができるように 支援している。</p>	/	/
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人と家族様が希望した かかりつけ医に往診にきて頂いたりこれまでかかっていた病院に付き添い受診に行っている。</p>	<p>現在2名の入居者がかかりつけ医を受診している。1名は往診、1名は職員同行で受診しに行く。協力医の高石病院からは2～3週間に一度の往診があるが、本ホームと同じ建物内にあり緊急時には安心である。歯の診察はケイ歯科が週に一度往診にくる。</p>	<p>事業所は入居者希望のかかりつけ医の往診を認めている。入居者の体調急変時に於ける対応のあり方については、職員同士でより具体的な話し合いをされるよう要望したい。</p>

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>職員間同士では申し送りノートの活用、また医療連携でのナースには医療の面での相談・アドバイスを得ている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>医療連携を取っている病院・医師とは 常に情報の共有に努め連携を取っていけるように 努めている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取りに入った場合 本人様含め家族様とも話し合いを重ね出来る事の方針を説明し共有して 医療・家族・スタッフ 周りを巻き込んで支援に努めている。</p>	<p>入居時に事業所と家族の間で重度化した場合や看取りについて話し合われている。現在は半数位が看取りまでを希望している。話し合いの内容の変更についてはいつでも相談に応じている。ターミナルケアについては事業所は常に真摯な対応に徹しており、今の管理者はこれまでに2名の方に愛情ある看取りをしている。</p>	<p>終末期を迎えようとしている入居者に対して、事業所は家族と十分に話し合われた可能な限りの支援をしている。これからもこの態勢を維持され、入居者に対して最期の時まで愛情ある支援をお願いしたい。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救命救急の研修に参加しAEDの使い方も勉強してきている。また、医療連携から提携病院に迅速連絡をし対応している。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回法人の避難訓練に利用者様と参加し地域との連携を築いている。</p>	<p>年2回の避難訓練の内一回は消防署の立ち会いで実施している。職員と入居者が一体となって避難するが、動く事が難しい入居者には布団を利用した避難方法も実践している。ホームでは電磁器具を使っているためガス火災の心配はない。また消火器や防火扉の装備もある。</p>	<p>不慮の災害については全てを予見する事は難しい。地震対策や深夜における屋外退避への方法をシミュレーションなどをして職員全体で検討して頂きたい。また、近くの所を避難場所として特定される事も重要な事と思われる。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり声掛け対応を工夫している。また触れられたくないことなどは職員は話し合い申し送りプライバシーを尊重しつつ対応に心がけている。	職員は入居者一人ひとりの性格と特性を理解し共有し合っている。名前の呼び方も「お父さん、お母さん」とその場に合った親しみのある言い方をしている。排泄介助の時はそれとなく連れて行き、人格と尊厳を守っている。	加齢による自分自身での世話がままならぬ入居者には、介護は有り難くも有り辛くもある。職員は入居者の心理をよく理解され、これからも人生の先輩者としての認識のもと、人格と尊厳のある支援をお願いしたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の言動の中から些細なきずきを見つけ得て 寄り添い声掛けし本人が思いや希望を表せるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その時々にあわせ 各々のペースにあわせて対応するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事やお出かけ時には お化粧品をしたり、馴染みの美容院でカット・パーマしたり 帽子やストールなどの小物でのおしゃれも楽しめる様支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に調理・盛り付け・片づけなどをしたり、行事の時には利用者様からリクエストいただき好きな物を職員も一緒に食事して 食を楽しむように努めている。外食を希望する利用者様には付き添い似て外食も楽しんで頂いている。	2ヶ所の配食業者を利用し栄養管理された食材を受けている。朝食はパン・牛乳と添え物として炒め物・煮物・オムレツなども出される。昼・夕はバラエティな料理が楽しまれている。入居者の中には調理場で手伝いする人もあり生き甲斐もなっているし、理念もこういった所で活かされている。	食事時間はいかにも楽しそうである。入居者や職員の会話も弾み互いにパートナーのように溶け合っている。これかれも、この明るい両者の関係を維持継続され、入居者の為に生き甲斐のある楽しい食事時間を過ごされるよう期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事量・水分量を考慮しつつ、少ないときは好きな飲みものを飲んで頂いたり工夫して支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に1度歯科衛生士さんによる口腔ケアで 様子やアドバイスなど指導して頂いている。また、毎食後には 職員が口腔ケアを行い口腔内の清潔を保つように努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとり時間を見て声掛けしトイレに行くように促し排泄の失敗が少なくなるよう、また出来るだけといれでの排泄が出来るように支援に努めている。	排泄介助が必要な入居者にはそれとなく静かに声かけをしている。また、自立可能な入居者には見守りをしながら本人が可能な限り自立支援できるような雰囲気作りをしている。	入居生活の中で最も難しいのが排泄の自立支援である。この自立支援のあり方について職員同士で十分に話し合わせ、実践可能な方法での自立支援の模索をされるよう期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様一人一人の水分量を把握し水分不足による便秘にならない様に水分を取って頂けるよう努めている。また、歩行運動や・トマトジュース・牛乳などの工夫やホットタオルでのマッサージなども行い支援している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様のご希望に添って入浴日を決めたり 時間を決めたり又入浴剤を使ったりゆず等もちえて工夫し支援を行っている。	週に2、3回の入浴が行われ洗髪もその都度行われている。湯の入れ替えと浴槽洗いもその都度される。入浴を嫌がる入居者には時間差で誘っている。入浴時には常に会話を交わしたり入浴剤を使用するなどして楽しい入浴タイムを味わってもらっている。	入浴を好まない入居者の深層心理を解明され入浴しやすい状況を作ってあげられたい。また、CDの音楽も好き嫌いがあると思われ、当人の好みに合った音楽を流すという対応もお願いしたい。

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>整体後ご自身の部屋でゆっくり休まれたり昼食後等各部屋に戻りゆっくり自分の時間を取るよう支援している。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>利用者様の薬を把握し 医療連携のナースに相談・指示を仰ぎ情報の共有をし 変化時には連絡している。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>利用者様の出来る事にあわせて洗い物や洗濯物干し等 分担して出来るように支援している。また、気分転換に外出・外食などの支援もしている。</p>		
49 18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>個別支援の中で 旅行に行ったり、食事に出かけたり 出来る限り利用者様の希望に添って家族様の協力も得ながら支援を行っている。</p>	<p>事業所から20～30分程度の所に高石神社があり、毎日のように散歩に出かけている。また、個人の希望も叶えられ喫茶店や食事などにも出かけたりする。花見の時は全員でドライブに行く事もある。入居者の中には定期的に一泊旅行もする人がいるが事業所はその人の希望も叶えている。</p>	<p>屋外に出るといふ外出支援は入居者にとって気分転換のよき機会である。事業所の弛まない努力が入居者の心に活力を与えている。これからも、恒久的に外出支援の働き掛けをされ、入居者の福祉サービス向上に努められたい。</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>認知度に応じて対応の仕方を変えているが、自分で管理し買える物ができる利用者様に関してはお金の所持や買い物ができるように支援している。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者様の希望に出来る限り添えるように支援している。電話希望の利用者様には、公衆電話が使えるようにしている。</p>		
52 19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に応じて壁面や毎月行う華道クラブの季節の花を飾り 季節感を味わっていただき、照明・室温・カーテンなどにも気を付けて 居心地良く過ごせるように支援している。</p>	<p>リビングの中には二面の大きなガラス窓があり全体に極めて明るい感じがする。壁だけの一面には季節物の手作りの雛人形が掲げられ楽しい雰囲気作りに仕上がっている。話し声がよく聞こえ入居者が長時間寛げる事のできる環境である。</p>	<p>職員達の明るい話し方が入居者にも伝わり、リビング全体が和気あいあいとした感覚に包まれている。部屋全体の明るさと相乗して、入居者にとっては居心地のよいリビングとして出来上がっている。この明るくて楽しい共用空間がいつまでも続くように期待したい。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共同空間の中で気の合った利用者様が同席になり お茶を飲みながら会話をしたり 各々思い思いに過ごせるように支援している。</p>		
54 20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>出来るだけ本当の自分の部屋になるように 家族様と相談し意見を取り入れて 居心地良く過ごせるよう工夫をしている。</p>	<p>各居室には各人の思い出の家具、置物があり生活感溢れた潤いを感じさせた。職員は入居者一人ひとりの生活歴を熟知した上で、互いに協力しながら各人の個性にあった部屋作りをしている。入居者も自分だけの部屋で毎日楽しく安心して生活している。</p>	<p>各居室の表札を改良した物は仄々とした楽しさを感じさせた。目標達成計画にもされていた事であり高く評価できる。こうした思考方針は、他の方面にも活用したりして、本ホームの福祉サービスの向上に努められるよう望みたい。</p>
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>自分で気兼ねなくトイレに行けるように、場所を分かりやすく表示したり 表札の代わりに写真を提示して 迷わず戻れるように工夫している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない